

令和3年 第4回 定例会

令和3年第3回定例会以降における町政の主なものについてご報告申し上げます。

最初に、お手元に第3回定例会以降における工事発注一覧表を配付しておりますのでご照覧ください。

行政報告

はじめに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策についてご報告申し上げます。

まず、感染状況についてですが、北海道内はもとより、全国的にも新規感染者数は低い水準で推移しておりますが、感染事例は少ないながら継続して発生しており、道内都市部では集団感染が確認されるとともに、国内でも新たな変異ウイルスの感染事例が確認されるなど、今後、継続的な感染拡大につながらないよう、こうした状況を注視した感染防止対策が求められているところであります。

こうした中、北海道では、今後、気温が低下し、屋内での活動が増えるとともに、年末に向けて、忘年会等の行事により、社会経済活動の活発化が想定されることから、換気を含めた基本的な感染防止行動の実践を呼びかけているところであります。

次に、本町におけるワクチンの接種状況についてですが、町が実施する集団接種は10月末をもって終了し、現在は、接種を希望する方について個別接種で対応しております。

また、接種率は、11月末現在で88.3%となっており、全道平均の77.0%に比べて、高い接種率となっております。

3回目のワクチン追加接種につきましては、感染拡大防止及び重症化予防の観点から、国等の対応方針に従って、速やかに接種できるよう、18歳以上の2回目接種完了者を対象とした準備を進めており、接種から8か月を経過した方から、順次接種を行っていく計画であります。

なお、町民の皆さまには、改めてご案内をさせていただきますので、ご理解をよろしく申し上げます。

町としましては、追加接種は、新型コロナウイルス感染症のまん延防止を図る上で、大変重要な対策であると考えており、円滑に接種ができるよう、医療機関や関係機関と連携し、取り組んでいく考えでありますので、引き続き、基本的な感染防止対策の励行とともに、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

次に、町政懇談会等の開催についてご報告申し上げます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を中止しましたが、本年度は感染者数が落ち着いた状況を踏まえ、密を回避できる会場を選定し、感染対策を行ったうえで、11月15日から22日まで、町内5か所で町政懇談会を開催し、延べ66人の皆さまにご出席いただきました。

また、これに先立ち、11月10日に、例年5月に開催しております自治会長会議も18名のご出席をいただき開催しました。

それぞれの会議で、町からは、「新型コロナウイルス感染症対策の実施状況」と「第2期定住促進・公共施設有効活用計画の検討状況」の2点についてご説明をさせていただき、多くの貴重なご意見をいただきました。

今後のまちづくりや令和4年度の予算編成の参考とさせていただきたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

次に、10月15日に行われた令和3年度有珠山火山噴火総合防災訓練についてご報告申し上げます。

本訓練は、有珠山周辺の1市3町と関係機関、学識経験者で構成する有珠山火山防災協議会が主催し、避難計画の検証や各機関の対応能力の向上、連携強化等を目的として行ったもので、当日は関係17機関と地域住民が参加し、火山性地震の増加等に伴う段階的な噴火警戒レベルの引き上げを想定して訓練が行われました。

本町においても、防災行政無線や緊急速報エリアメールによる情報伝達訓練、町災害対策本部の設置及び運営訓練のほか、壮瞥温泉地区住民や壮瞥高校の皆さんのご協力をいただき、久保内小学校を会場とした避難所の設営訓練、要支援者やペット同行者等の様々なケースに対応した避難受入訓練等も独自で行ったところであります。

町といたしましては、今後もこのような訓練等を通じて、次の噴火への体制整備に努めてまいりたいと考えております。

次に、本年の農作物の作柄についてご報告申し上げます。

はじめに、気象の概況についてですが、気温は、5月を除いて、近年の平均に比べてやや高めに推移し、7月中旬から8月上旬には夏日が続く状況となりました。

一方で、降水量は4月以降全般的に少なく、特に、7月は近年の平均値の1割程度と極端に少なくなり、干ばつの影響が懸念される状況となりました。

全体的には、農耕期間を通して、大雨や強風、台風といった農作物に大きな影響を及ぼす気象災害も少なく、コロナ禍で明るい話題が少ない中であって、豊穰の秋を迎えたところであります。

このような気象条件下における本年の主な農作物の作柄についてですが、本町の基幹作物の一つである水稲では、7月下旬から8月上旬にかけての暑さにより生育が進み、品種やほ場条件によって多少の違いが見られるものの、収量は平年を上回り、おいしさの目安となるアミロースや精米タンパクの含有率も低く、高品質な良食味米となっています。

次に、本町農業の特色の一つである果樹についてですが、おうとうは、凍霜害による花の損傷や開花期の低温の影響により着果数が平年に比べて少なくなりましたが、果実肥大などの品質は良好となっています。

また、りんごについては、ほ場条件や品種により凍霜害等の影響があったものの、収量は平年並みで、果実肥大や着色は良好で、糖度も高い品質となっています。

次に、近年、本町で栽培が拡大しているブロッコリーやたまねぎにつ

いてであります。ブロッコリーは、7月から8月にかけて、暑さの影響から出荷歩留まりが低下したものの、それ以外は全体的に良好な品質となり、たまねぎについては、7月の少雨による干ばつの影響を受け、小玉傾向となっています。

このほか、本町では、トマトやスイートコーン、アスパラガス、メロンなど多様な農作物が生産されておりますが、生産者の皆様が丹精して生産したすばらしい農作物は、いずれも品質の良さやおいしさを誇れるものが多く、道の駅の農産物直売所サムズや各生産者の直売所、さらには、ふるさと納税の返礼品として、町内外の消費者の皆さまから好評をいただいているところであります。

町としましては、今後とも、生産者の皆さまや関係機関・団体の皆さまと連携して、地域の宝である農畜産物の持続的な生産体制づくりを進めてまいりますので、ご理解とご協力をよろしく申し上げます。

最後に、昭和新山国際雪合戦についてご報告申し上げます。

昭和新山国際雪合戦につきましては、2年続けて開催を見送ることとなりました。

次回につきましては、国内の新型コロナウイルス感染者数は、低い水準で推移しているものの、継続して感染防止対策が求められていることから、公式大会としての開催は行わず、感染対策を十分に行ったうえで、規模を大幅に縮小し、令和4年2月20日の1日間、オープン大会を実施する計画である旨、昭和新山国際雪合戦実行委員会から報告を受けたところであります。

町としましては、引き続き必要な支援を行ってまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をよろしく申し上げます。

以上、令和3年第3回定例会以降における町政の主なものについてのご報告といたします。